

1 題材名 4年生になって【内容(2) 希望・目標】 指導の時期 4月

2 題材について

児童は、4年生になった4月を、喜びや希望、不安などの様々な気持ちを抱いて迎える。同時に、上学年として自分たちが活躍する様々な場面があることに気付く。年度初めのこの時期に、上学年であることを学級全体で話し合い、自覚をもって責任を果たそうとする目標をもつことができるようにしたい。また、この活動を通して、一人一人が希望や目標をもち、それぞれの資質や能力を生かしながら学級の仲間と協力して居がいのある学級作りをしていくことも目指したい。

3 題材の目標

- 学校行事や清掃活動などで自分たちが活躍すべき場や活動の内容について関心をもち、進んで調べ、上学年としての目標をもつとともに、居がいのある学級の在り方について考えようとする。(関・意・態)
- 学校行事や清掃活動などで自分たちが活躍すべき場や活動について、友達と話し合いながら、4年生としての目標と居がいのある学級作りについて考え、自分の考えを発表することができる。(思・判・実)
- 4年生として自分たちが学校をよくしていくためには、学校行事や清掃活動など、様々な場面で周りのことを考えて活動し、協力していく必要があることが分かる。(知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

- ◎ 学校行事や清掃活動などで、周りのことを考えて活動していく必要があることに気付き、実践しようとする。(実践力)
- ◆ 上学年の一員として自分たちが活躍することが、学校をよくしていくことにつながることを知らせ、4年生としての役割や責任の大切さを伝える。

(1-(2) 勤労・努力、忍耐)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)
・ 上学年として必要な仕事の内容や行事での役割等について調べておく。 (休み時間・ふれあいタイム)	○ 年間行事計画を提示したり、昨年度の4年生の活動の様子を知らせたりして、児童が考えやすいような資料を用意する。

(2) 本時の活動

① 活動テーマ例 「4年生でがんばりたいこと」

② 活動のねらい 4年生の在り方を考え、自分のめあてをもとう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 調べてきたことをもとに、上学年の役割や責任について、教師の話聞く。	○ 3年生と4年生の違いを、年間行事計画を示しながら説明するなど、具体例を挙げて話したりする。
展開	2 調べたり話し合ったりして分かったことや4年生での夢や希望、不安などを発表する。 3 発表し合ったことをもとに、4年生としての在り方を話し合い、目標に書く。	○ 様々な気持ちを自由に話し合える雰囲気作りをする。 ○ 自分たちのこれからの役割を自覚し、考えられるようにするために、友達の発表した意見に付け足す意見や反論する意見をつながながら発表できるよう助言する。 ◇ 4年生としての自分の目標を書くことができたか。
終末	4 4年生としての目標を発表する。	○ 目標カードを教室の壁面に掲示し、児童がいつでも確認、振り返りができるようにする。

(3) 事後の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
・ 学校行事や清掃活動などの様々な場面で自分のめあてをもち、活動に取り組む。 (常時活動)	○ 学校行事や清掃活動などの様々な場面で、児童の活動のよさを見つけ、称賛していく。 ◇ 自分たちの活動によって、学校がよくなっているか、ということに気付いているか。

1 題材名 気持ちのよいあいさつ【内容(2) 生活習慣】 指導の時期 5月

2 題材について

あいさつは基本的な生活習慣として身に付けられるようにしたい。児童は、多くの友達や教師と学校生活を送る中で、あいさつをお互いが気持ちよく生活するためにやらなければならないことだと分かっているが、なかなかできていないのが現状である。相手に言われてからしたり、声が小さかったり、相手を見ずにしたりするあいさつは、心が伝わりにくい。そこで、あいさつのよさを再認識することで、自分から気持ちのよいあいさつができるようにしたい。

3 題材の目標

- 気持ちのよいあいさつを自分から進んでしようとする意欲をもつことができる。
(関・意・態)
- 気持ちのよいあいさつについて考え、意見を出し合い、試すことができる。
(思・判・実)
- あいさつをすることの意味を理解し、礼儀正しく、気持ちのよいあいさつが分かる。
(知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

- ◎ 気持ちのよいあいさつやあいさつされる側の気持ちについて考え、自分から進んであいさつすることができる。(実践力)
- ◆ 気持ちのよいあいさつは、自分と相手をつなげるコミュニケーションの手段の一つであり、お互いを認め合い、よりよい人間関係を作るものであることを理解し、自分から進んであいさつができるように意欲を高める。(2-(1) 礼儀)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)
・ あいさつについてのアンケートに答え、自分の実態を知る。 (朝の学習・ふれあいタイム)	○ 自分が、いつ、どこで、どんなときに、どんなあいさつをしているかを記述できるようにし、気持ちのよいあいさつについて、自分の考えをもっておくことで、話合いが円滑に進むようにする。

(2) 本時の活動

① 活動テーマ例 「あいさつは幸せづくりのお手伝い！」

② 活動のねらい 気持ちのよいあいさつについて考え、実践しよう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 気持ちの良いあいさつについて話し合うことを発表する。 2 「あいさつ」について教師の話聞く。	○ 「気持ちのよいあいさつ」という観点から考えたり、発表する時間であることを伝え、話合いのねらいを焦点かできるようにする。 ○ 事前のアンケートの結果を伝えたり、これまでのあいさつに関する経験を振り返らせたりすることで、話合いのねらいを明確にする。
展開	3 あいさつはなぜ必要なのかを話し合う。 4 ロールプレイを通していろいろなあいさつの仕方を試し、そのときの気持ちを考える。	○ あいさつをしたときやされたときの気持ちを発表することで、自分の考えを伝えられるようにする。 ○ いろいろなあいさつをロールプレイを通して体験させることで、相手に伝わるあいさつの違いに気付くようにする。 ◇ あいさつについての話合いやロールプレイを通して、気持ちのよいあいさつについて理解したか。
終末	5 本時の活動内容をふり返り、これからのあいさつの仕方についてノートに記入する。	○ 本時の活動内容を振り返り、今後どのようなあいさつをしていきたいかをノートに記入させる。 ◇ 気持ちのよいあいさつについて、どのように実践していくのかノートに書くことができたか。

(3) 事後の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
・ お互いに気持ちよく生活するために、気持ちのよいあいさつをする。 (常時活動)	○ 教師がされて気持ちよかったあいさつや、気持ちのよいあいさつをしていた児童を称賛することで、常時、あいさつを実践できるようにする。

1 題材名 宿泊学習【内容(2) 希望・目標】

指導の時期 5月

2 題材について

宿泊学習のバスの中や各部屋の中での時間の過ごし方は、宿泊学習をより楽しくするために必要である。宿泊を伴う学習は、児童にとって今回が初めてであり、活動をとてもしみにしている児童が多くいる。今回、様々な活動の中でも、バスの中の時間の計画を立てることを通して、友達と協力する大切さや、みんなが楽しめる活動を考える創意工夫の力を付けていけるようにしたい。

3 題材の目標

- バスの中での活動を考えたり、みんなが楽しめる活動を提案したりして、意欲的に参加しようとする。(関・意・態)
- 限られた時間や場所を考慮し、活動のルールを工夫したり、みんなが楽しめる活動を計画することができる。(思・判・実)
- バスの中で行う活動であるため、できることに限りがあり、安全面にも気を付けながら計画を立てることができる。(知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

- ◎ 自分の考えやアイデアにこだわるのではなく、様々な意見を取り入れ、みんなが楽しめるような活動を考え、実践していこうとする。(実践力)
- ◆ みんなが楽しめる活動を考えたり、計画を立てたりすることで、友達と協力する大切さや相手のことを考える思いやりの気持ちを育てる。(2-(2) 思いやり・親切)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)
<ul style="list-style-type: none"> ・ バスの座席と宿泊学のグループを決めておく。 ・ バスの中での活動について考えておく。(休み時間・ふれあいタイム) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の意見を聞きながら、バスの座席やグループを決めておく。 ○ バスの中でのレクレーションに関する資料を教室に置き、児童が考えをもちやすくする。

(2) 本時の活動

① 活動テーマ例 「宿泊学習のバスの中の時間を楽しくしよう」

② 活動のねらい 宿泊学習のバスの中を楽しく過ごすための計画を立てよう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開	1 宿泊学習についての概要を教師から聞く。	○ 宿泊学習を行う目的や、活動内容を説明し、宿泊学習への意欲を高める。
展 開	2 バスの中での決まりや時間を確認する。 3 バスの中で行う活動について発表し合う。 4 活動ごとのグループに分かれ、さらに詳しい内容について話し合う。	○ バスの中での細かな決まりや時間を確認し、マナーを守る大切さに気付かせる。 ○ これまでの遠足などの活動を想起させ、どんなことに気を付け、何をしたらみんなが楽しいのかを具体的に考えられるようにする。 ○ 準備物や時間など、活動に必要なことを確認することで、活動を実施できるように方向づける。 ◇ みんなが楽しめる活動を、友達の意見を取り入れたり、協力したりしながら考えることができたか。
終 末	5 決まったこと、これからに必要なことをノートに書く。	○ 意欲的に話し合いが進められたことを称賛し、宿泊学習当日に向けての準備について助言する。

(3) 事後の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 宿泊学習に向けて、各グループごとに準備を進め、当日にレクレーションを実施する。(ふれあいタイム・宿泊学習) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ レクレーションに必要な時間や準備物を児童と話し合い、できるだけ確保する。 ◇ バスの中で、友達と協力してレクレーションを実施し、楽しく過ごすことができたか。

1 題材名 歯の健康【内容(2) 健康・安全(体)】 指導の時期 6月

2 題材について

中学年は、ほぼ全員の児童が、乳歯から永久歯へ生え変わる(歯が抜ける)という経験をする時期である。歯を健康に保ち、むし歯の予防をするということは、健康上とても大切であるが、歯の生え替わりとむし歯の関係を理解していない児童も多く、またむし歯に罹患している児童も少なくないのが現状である。ここでは、むし歯の原因やむし歯を防ぐ方法を話し合わせたり、養護教諭の協力を得て専門的な立場から実演や説明、染め出し等をしてもらったりすることで、むし歯予防の意識を高め、健康な歯を保つ意識を高めさせたい。

3 題材の目標

- 自分の歯がどういう状況かについて考えたり、歯の生え替わりとむし歯の関係について考えたりしながらむし歯予防への興味・関心をもち、積極的にむし歯予防を行おうとする。(関・意・態)
- これまでの生活経験や養護教諭の説明をもとに、むし歯を防ぐ方法を考えて自分の意見を発表することができる。また、自分のめあてをもとに、むし歯予防を実践することができる。(思・判・実)
- むし歯の原因を知るとともに、おやつの摂り方とブラッシングに気を付ければむし歯になりにくいことを知り、毎日欠かさずむし歯予防に努めることが大切であることが分かる。(知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

- ◎ 友達の意見のよさに気付き、自らの生活に取り入れて問題を解決し、生活を向上させようとする。(実践力)
- ◆ むし歯予防についての話を通して、毎日欠かさずむし歯の予防に努めることが大切であることに気付かせ、健康に留意しながら規則正しい生活が送れるようにさせる。(1-(1) 思慮、節度・節制・自立)
- ★ 歯の健康について考える活動を通して、生活習慣を見直し、よりよい生活習慣の定着を図る。(保健指導)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯ブラシの点検をする。(給食等) ・ むし歯の原因を考える。(朝の会・帰りの会等) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ むし歯になったときのことを想起させ、むし歯の原因を事前に考えさせるよう全体に声をかけることで、むし歯に対する関心を高める。

(2) 本時の活動

- ① 活動テーマ例 「歯の健康について考えよう」
- ② 活動のねらい みんながむし歯にならないために、むし歯になるわけやむし歯にならない方法を話し合おう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 「活動のテーマ」と「活動のねらい」を確認し、むし歯になったときの様子を発表する。 2 教師と養護教諭の話聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ○ むし歯の有無を問いかけ、むし歯のときの様子を発表させる。 ○ むし歯がない児童も、むし歯を防ぐ方法を考えることを伝え、課題意識や目的意識をもたせる。
展開	3 むし歯の原因について話し合う。 4 おやつの摂り方を話し合う。 5 おやつの摂り方やブラッシングについて、養護教諭の話聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 普段の自分の生活を想起させる。 ○ 養護教諭が具体物や資料を提示して、むし歯の原因やおやつの摂り方、ブラッシングについて説明することで、児童の理解を深められるようにする。 ○ むし歯の原因や各家庭の実態から、自分の生活に合ったむし歯をなくす方法やむし歯の予防方法を考えるようにする。 ◇ 話し合ったことや聞いたことをもとに、むし歯を防ぐ方法を考え、自分の意見を発表することができたか。
終末	6 むし歯予防についての話し合いを振り返り、教師の話聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ○ むし歯の予防のために今後実践していきたいことを記述させ、実践意欲が高まるようにする。

(3) 事後の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
・ 自分のめあてを意識して むし歯予防を行う。 (随時)	○ 授業で用いた資料を提示し、自分のめあてが達成できているか適宜問いかける。 ◇ めあてに沿ってむし歯予防を積極的に行おうとしているか。

1 題材名 1 学期の反省【内容(2) 希望・目標】 指導の時期 7 月

2 題材について

4 年生の児童はクラブ活動に参加するようになり、異学年交流を通して上級生の取り組み方を学んでいくようになる。その中で 1 学期の努力したことや成果、課題などを話し合わせ、1 学期間の自分たちの成長を振り返るとともに、2 学期に向けて生活をよりよくしていこうとする意欲を高めさせたい。

3 題材の目標

- 1 学期の学習や生活について振り返り、努力したことや成果、課題などについて話し合い、2 学期のめあてを考えようとしている。(関・意・態)
- 1 学期の学習や生活を振り返り、成果や課題を発表することができる。(思・判・実)
- 1 学期の反省をもとに 2 学期のめあてを立てることを通して、課題意識をもって生活をさらによくしていこうとすることの大切さに気付く。(知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

◎ 友達の意見のよさに気付く、自らの生活に取り入れて問題を解決し、生活を向上させようとする。(実践力)

★ 振り返りと新たなめあてによって、生活が少しずつ向上していくことに気付かせ、近い将来を設計していくことの大切さや必要性に気付く。(キャリア教育)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)
・ 「自分につける通知表」に取り組む。 (帰りの会等)	○ 1 学期の生活を振り返らせ、どのような生活を送ってきたかについて、うれしかったことや楽しかったこと、大変だったことを中心に記述させる。

(2) 本時の活動

- ① 活動テーマ例 「1 学期を振り返ろう」
- ② 活動のねらい 1 学期の生活を思い出し、自分をさらに伸ばすめあてを考えよう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 「活動のテーマ」と「活動のねらい」を確認し、1 学期の生活について話し合う。	○ 学習や生活の様子を想起できない児童には、学校行事や学年行事等の様子を伝え、想起できるよう支援する。
	2 教師の話聞く。	○ 1 学期の生活に改善点がない児童にも、課題意識や目的意識をもたせる声かけをする。
展開	3 2 学期にどのように生活していきたいか話し合う。	○ 校訓「かしこく、なかよく、たくましく」にもとづいて考えさせる。
	4 2 学期のめあてを記述する。	○ 1 学期のめあてで達成できなかったものは、2 学期に継続してもよいことを伝える。
	5 記述したことを発表する。	◇ 1 学期の生活について振り返り、2 学期のめあてを立てることができたか。
終末	6 教師の話聞く。	○ めあてが書けたことや発表したことを称賛し、2 学期の学校生活への意欲を高める。

(3) 事後の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
・ 自分の振り返りとめあてを意識して生活する。 (常時活動)	○ めあてを掲示し、めあてが達成できているか適宜問いかける。 ◇ めあてに沿って生活しようとしているか。

1 題材名 夏休みの生活【内容(2) 希望・目標】 指導の時期 7月

2 題材について

夏季休業は、4年生の児童にとって楽しみであると同時に、課題等に計画的に取り組んでいく必要があるという大変さもある。保護者には、学年懇談会や学年だより等で理解と協力を呼びかけるが、児童自身にも、自分に合った計画を立てて取り組むことの大切さを理解させたり、やり遂げた達成感を味わわせたりすることが重要である。

そこで、夏季休業中の生活、学習の仕方等を取り上げ、どのような計画を立て、過ごしていけばよいかを考えさせ、夏季休業をよりよいものにしていこうとする意欲を育てたい。

3 題材の目標

- 夏季休業中の学習や生活について、進んで計画を立てたりめあてを考えたりしている。(関・意・態)
- 夏季休業中の学習や生活について、望ましい生活リズムや学習計画を知り、自分に合った計画を立てたり、めあてを考えたりすることができる。(思・判・実)
- 夏季休業中の学習や生活について、計画を立てて取り組むことの大切さが分かる。(知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

- ◎ 友達の意見のよさに気付き、自らの生活に取り入れて問題を解決し、生活を向上させようとする。(実践力)
- ◆ 自分で立てた計画やめあてを意識することによって、節度ある、自立した生活を送ろうとする態度を育てる。(1-1) 思慮、節度・節制・自立)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)
・ 夏休みの計画表に、夏季休業中の予定を記入する。 (家庭)	○ 学年懇談会や学年だよりで、夏季休業を計画的に過ごすことの大切さを保護者に説明し、協力を得られるよう配慮する。

(2) 本時の活動

① 活動テーマ例 「充実した夏休みにしよう」

② 活動のねらい 夏休みを楽しく過ごすための計画を立てよう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 「活動のテーマ」と「活動のねらい」を確認し、夏休みの生活について、教師の話聞く。	○ 項目を分けて、分かりやすく説明する。 (例)健康な生活について 安全な生活について 計画的な学習について
展開	2 夏休みのめあてを立てる。 3 夏休みの学習計画を立てる。 4 記述したことを発表する。	○ 無理なく取り組めるめあて、計画を立てさせる。 ○ 家族行事や育成会行事等にも進んで参加するよう話す。 ◇ 計画的に過ごすことの大切さを理解し、夏休みの計画を立てているか。
終末	5 教師の話聞く。	○ 夏季休業の過ごし方の大切さを説明し、夏季休業の生活への意欲を高める。

(3) 事後の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
・ 計画やめあてを意識して夏休みの生活を送る。 (夏休み)	○ 計画的に生活することが困難な児童、家庭には、連絡を取り、話を聞く。 ◇ 計画的に夏季休業を過ごすことができたか。 (課題、日記等の提出状況)

1 題材名 4年〇組のよさ【内容(2) 人間関係】

指導の時期 9月

2 題材について

児童は10歳を迎える年になり、自分の主義や主張を言い張ったり、互いのよさよりも欠点に気付き、互いに傷つけ合ったりしてしまうことがある。そこで、この時期に自分たちの学級について改めて目を向け、学級のよさを実感したり、友達や自分のよさを認め合ったりしていく中で、学級への所属感をもち、居心地よく感じるようになるだろう。そのために、学級でこれまでの生活を振り返り、よりよい学級を作るためにはどうすればよいのかを話し合う必要がある。そのことを通して、さらに学級での協調性や居心地のよい学級の雰囲気作りにつなげていく。

3 題材の目標

- 自分の学級に関心をもち、よりよい学級作りのための話合いに意欲的に参加しようとする。(関・意・態)
- これまでの学級生活を振り返り、学級のよさを伸ばしていける方法を考え、自分の考えを発表することができる。(思・判・実)
- 学級のよさを伸ばしていくためには、一人一人の協力が必要であることが分かる。(知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

- ◎ 学級の長所や短所を話し合う活動を通して、よりよい学級作りのための方法を考えようとする。(実践力)
- ◆ 学級のよさを伸ばすには、一人一人の頑張りや友達との協力が必要であることに気付かせ、自立や信頼の大切さを実感させる(2-(3) 友情・信頼、助け合い)。

5 題材の展開

(1) 事前の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)
・ 司会グループが、学級の長所と短所についてのアンケートを実施する。 (ふれあいタイム等)	○ アンケートの内容や結果のまとめ方で、学級の長所と短所が明確になるように助言する。 ○ 個人でのできごとではなく、学級全体に関わることであることを知らせる。

(2) 本時の活動

① **活動テーマ例** 「4年〇組をもっとよくしよう！」

② **活動のねらい** 学級のよさを見つけて、もっとクラスをよくしていこう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 司会グループがアンケートの結果を発表する。 2 学級の様子と、今日の活動について教師から話を聞く。	○ アンケートに沿った写真を用意し、これまでにあった活動を想起しやすくする。 ○ 長所と短所も含めて、現在の学級の様子を伝え、本時でのねらいを明確にする。 ○ 本時は、学級のよさを伸ばす方法を考える時間であることを意識化させる。
展開	3 学級のよさを伸ばすためにできることを話し合う。	○ 普段の生活や行事でのよさを見つけることができるように助言し、学級のよさにつなげるようにする。 ◇ 学級のよさを伸ばすための話合いに意欲的に参加しているか。
終末	4 本時を振り返り、今後取り組むことをノートに書く。	○ 個人だけでなく、係ごとや友達同士で取り組んでもよいことを伝える。 ○ 話合いを称賛し、学級のよい雰囲気作りにつなげる。

(3) 事後の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
・ 話合い活動で決まったことを個人や各係ごとに実践する。 (休み時間・ふれあいタイム)	○ 活動に必要なものや時間を確保し、学級のために取り組んでいる姿勢を称賛する。 ◇ 学級のよさを伸ばすため、考えたことをもとに実践しているか。

1 題材名 学校図書館の利用【内容(2) 学校図書館】 指導の時期 10月

2 題材について

読書について、荒川小学校では、月曜日と木曜日の朝の学習として読書の時間を取り入れたり、校内読書週間を設け読書を促したり、南那須図書館と連携して巡回図書館を定期的に行ったりし、児童に読書の大切さや面白さを伝える取り組みを行っている。朝の学習や新しい本が入ったときには、進んで本を読む児童は多いが、定期的に読書している児童は少ない。今回の題材では、自分のお気に入りの本について紹介し、さらに児童たちの読書の意欲を高めたい。今までに読んだことのなかった本や、新しい分野の本に触れる機会を通して、読書の幅を広げたり、読書への関心を高め、進んで読書をする態度を育てていきたい。

3 題材の目標

- おすすめの本を紹介するために、進んで本を読んだり、見つけた本を紹介しようとしたりしている。(関・意・態)
- 本の内容をもとにワークシートを作成し、おすすめの本を紹介することができる。(思・判・実)
- 本を読んだり、本を紹介する活動を通して、読書する楽しさや大切さが分かる。(知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

- ◎ 本を紹介する活動を通して、今までに読んだことのなかった本や、新しい分野の本にも興味・関心をもち、発表を認め合いながら話を聞く。(実践力)
- ◆ 約束や決まりを守って、みんなが使う物を大切にしようとする気持ちを養う。(4-(1) 公徳心・規則の尊重)
- ★ 本に親しみ、読書の楽しさ、喜びを味わわせ、豊かな心情を育てる。(学校図書館教育)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 本を読み、おすすめの本を見つけておく。 ・ おすすめの本についてワークシートにまとめておく。 (朝の学習・ふれあいタイム)	<ul style="list-style-type: none"> ○ おすすめの本として紹介できそうな本を選ぶよう声かけをする。本を決められない児童には、何冊かの本を提示する。 ○ ワークシートにポイントをまとめたり、絵を入れたりして、工夫できるよう声をかける。

(2) 本時の活動

- ① 活動テーマ例 「おすすめの本は？」
 ② 活動のねらい おすすめの本を紹介し、感想を伝え合おう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 一人ずつ、おすすめの本を紹介していくことを説明する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 書画カメラを準備し、本やワークシートを拡大して提示する。 ○ 最後に感想を伝える機会があることを説明し、発表の聞き方について指導する。
展開	2 おすすめの本を紹介し合う。 3 紹介に対して、感想を伝え合う。 4 本とワークシートを教室に掲示する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本の内容や読んだ感想を発表するよう伝える。 ○ 実際の本やワークシートを提示しながら発表するよう指示する。 ◇ おすすめの本を紹介したり、紹介を聞いた感想を友達に伝えることができる。
終末	5 本時の活動内容をふり返り、感想を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の活動内容を振り返り、感想を記入させる。 ◇ 本時の活動について感想を記入したり、気になった本の名前を書いたりしている。

(3) 事後の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動後に掲示したワークシートや本を見て、進んで読書する。 (常時活動)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期的に掲示物を更新し、様々な本に触れる機会を増やす。 ○ 読書の記録を活用し、読んだ本の記録を目に見える形で残しておくように伝える。

1 題材名 目の健康【内容(2) 健康・安全(体)】

指導の時期 1 1 月

2 題材について

近年、視力低下の割合が増加傾向にある。本活動では、児童が現在の視力の維持に必要なことや今からできることを考え、知ることによって生活行動の改善に向けた取り組みができるようにする。視力低下の原因や視力低下を防ぐためにできる取り組み等について、調べたり、発表したりすることで、自分の生活に取り入れられる取り組みを知り、実践できるようにしたい。

3 題材の目標

- 視力低下について関心をもち、話を聞いたり、調べたり、発表したりする活動に意欲的に参加しようとする。(関・意・態)
- 視力低下について調べたり、発表したりしたことをもとに、自分の生活の中で気を付けることを考え、実践することができる。(思・判・実)
- 視力低下の原因や視力の維持に必要なことを知り、現在の視力を保つ方法が分かる。(知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

- ◆ 目の健康を守るためには、生活行動を改善していく必要があることに気付かせ、日々の生活の中で実践していこうとする力を育てる。(1-(1) 思慮、節度・節制・自立)
- ★ 視力低下の原因や視力の維持に必要なことを知ることによって目の大切さを感じさせ、生活行動を見直したり改善したりすることにつなげたい。(保健指導)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)
・ 視力低下の原因や視力維持のためにできることについて事前に調べておく。 (休み時間・学級会ノート)	○ ルールが複雑な活動とそうでない活動、体を動かす活動とそうでない活動など、様々な視点から考えて全員が参加しやすい内容を考えるよう助言する。

(2) 本時の活動

① 活動テーマ例 「大事にしよう自分の目」

② 活動のねらい 目の健康について考え、目を大切にしていける方法を考えよう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 視力低下の現状についての実態を知る。	○ 視力低下の現状について児童の実態をグラフで示し、本時の活動への意欲を高める。
	2 目の健康について養護教諭から話を聞く。	○ 視力低下には遺伝も関係していることを伝え、視力の低い児童へ配慮するようにする。
展開	3 事前に目の健康について調べてきたことを発表する。	○ 児童が調べた内容ごとに、発表の順番を考え、内容にまとまりをもたせる。 (視力低下の原因、環境、等)
	4 発表を聞いて、考えた取り組みについて発表する。	○ 分かりやすい発表になるよう、ICTを活用したり、助言したりする。 ○ 発表や質問に足らない部分は付け足す。
終末	5 今後の生活の中で実践したいことをノートに書く。	○ 今までの実生活と、本時の内容を比較し、今後の生活行動に生かせることを考えさせる。 ◇ 本時活動を通して、視力低下を防ぐためにできることをノートに記述しているか。

(3) 事後の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
・ ノートに記述したことをもとに、実生活に生かせることを実践する。 (授業・各家庭)	○ 1週間分のチェックカードを用意し、意識化を図る。家庭には学だよりで取り組みについて知らせ、保護者にも協力してもらう。

1 題材名 2 学期の反省【内容(2) 希望・目標】 指導の時期 1 2 月

2 題材について

中学年となり、低学年のときとは違った学習や活動を行ってきた。4年生になり始まったクラブ活動にも慣れ、上学年として5、6年生と共に学校のために活動する機会も増えてきた。中学年としての自覚をもって、自信をもって学校生活を送っているといえる。そこで、2学期の活動や、自分たちの成長を確かめながら今学期を振り返り、3学期へ向けてさらに自分を伸ばしていきたいという意欲を高めさせたい。

3 題材の目標

- 2学期の学習や生活について振り返り、自分の成長を実感し、さらに自分の高めたいところや学校のために取り組みたいことを考えようとする。(関・意・態)
- 2学期の学習や生活について振り返り、自分や学校のために3学期さらに伸ばしていきたいところを考えることができる。(思・判・実)
- 2学期の反省をもとに3学期の学校生活について考える活動を通して、めあてをもって努力することや実践することの大切さが分かる。(知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

◎ 友達の意見のよさに気付き、自らの生活に取り入れて問題を解決し、生活を向上させようとする。(実践力)

★ 振り返りと新たなめあてによって、生活が少しずつ向上していくことに気付かせ、近い将来を設計していくことの大切さや必要性に気付く。(キャリア教育)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)
・ 「自分につける通知表」に取り組む。 (帰りの会等)	○ 2学期の生活を振り返らせ、どのような生活を送ってきたかについて、楽しかったことやがんばったこと、大変だったことを中心に記述させる。

(2) 本時の活動

① 活動テーマ例 「2学期を振り返ろう」

② 活動のねらい 2学期の生活を思い出し、自分をさらに伸ばすめあてを考えよう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 「活動のテーマ」と「活動のねらい」を確認し、2学期の生活について振り返る。	○ 学習や生活の様子を想起できない児童には、学校行事や学年行事等の様子を伝え、想起できるよう支援する。
	2 教師の話聞く。	○ 2学期の生活に改善点がない児童にも、課題意識や目的意識をもたせる声かけをする。
展開	3 3学期にどのように生活していきたいか話し合う。	○ 校訓「かしこく、なかよく、たくましく」にもとづいて考えさせる。
	4 3学期のめあてを記述する。	○ 2学期のめあてで達成できなかったものは、3学期に継続してもよいことを伝える。
	5 記述したことを発表する。	◇ 2学期の生活について振り返り、3学期のめあてを立てることができたか。
終末	6 教師の話聞く。	○ めあてが書けたことや発表したことを称賛し、3学期の学校生活への意欲を高める。

(3) 事後の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
・ 自分の振り返りとめあてを意識して生活する。 (常時活動)	○ めあてを掲示し、めあてが達成できているか適宜問いかける。 ◇ めあてに沿って生活しようとしているか。

1 題材名 冬休みの生活【内容(2) 希望・目標】 指導の時期 12月

2 題材について

小学校の長期休業を何度か経験し、休業中も規則正しく生活しようとする意識が備わっている。休業中の学習や生活の仕方について、児童自らが考え計画を立てることにより、やり遂げる達成感を味わわせる。

本題材は、冬季休業中の生活、学習の仕方等を取り上げ、夏季休業で学んだことを生かして、どのように計画を立て、過ごしていけばよいかを考えさせる。そして、冬季休業をよりよいものにしていこうとする意欲を育てたい。

3 題材の目標

- 冬季休業中の学習や生活について、進んで計画を立てたりめあてを考えたりしようとする。 (関・意・態)
- 冬季休業中の学習や生活について、望ましい生活リズムや学習計画について考え、計画を立てたり、めあてを記入したりすることができる。 (思・判・実)
- 冬季休業中の学習や生活について、計画を立てて取り組むことの大切さを知る。 (知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

◎ 友達の意見のよさに気付き、自らの生活に取り入れて問題を解決し、生活を向上させようとする。(実践力)

◆ 計画を立て、自分で立てためあてを意識することによって、節度ある、自立した生活を送ろうとする態度を育てる。(1-(1) 思慮、節度・節制・自立)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)
・ 冬休みの計画表に、冬季休業中の予定を記入する。 (家庭)	○ 学年懇談会や学年だよりで、夏季休業を計画的に過ごすことの大切さを保護者に説明し、協力を得られるよう配慮する。

(2) 本時の活動

① 活動テーマ例 「充実した冬休みにしよう」

② 活動のねらい 冬休みを楽しく過ごすための計画を立てよう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 「活動のテーマ」と「活動のねらい」を確認し、冬休みの生活について、教師の話聞く。	○ 項目を分けて、分かりやすく説明する。 (例)健康な生活について 安全な生活について 計画的な学習について
展開	2 冬休みのめあてを立てる。 3 冬休みの学習計画を立てる。 4 記述したことを発表する。	○ 無理なく取り組めるめあて、計画を立てさせる。 ○ 家族行事や育成会行事等にも進んで参加するよう話す。 ◇ 計画的に過ごすことの大切さを理解し、冬休みの計画を立てているか。
終末	5 教師の話聞く。	○ 冬季休業の過ごし方の大切さを説明し、冬季休業の生活への意欲を高める。

(3) 事後の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
・ 計画やめあてを意識して冬休みの生活を送る。 (冬休み)	○ 計画的に生活することが困難な児童、家庭には、連絡を取り、話を聞く。 ◇ 計画的に冬季休業を過ごすことができたか。 (課題、日記等の提出状況)

1 題材名 私たちの体をつくる食事【内容(2) 給食・食習慣】 指導の時期 1月

2 題材について

毎日食べてる給食について、メニューを見たり、栄養バランスを考えたりする機会はあるものの、給食がどこから来ているのかを知っている児童は少ない。給食は小学校から中学校まで続くものであるので、この機会に給食ができるまでを知ること、毎日の給食に感謝の気持ちをもって、食べることに繋げたい。

3 題材の目標

- 給食ができるまでに関心をもち、進んで調べたりまとめたりしようとしている。
(関・意・態)
- 給食ができるまでには、どんな人やものが関わっているのかを考えたり、調べたりして、まとめることができる。
(思・判・実)
- 給食には、多くの人やものが関わっていることが分かる。
(知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

◆ 給食には多くの人やものが関わっていることを知り、毎日おいしい給食を食べることができることに感謝する気持ちを育てる。(2-(4) 尊敬・感謝)

★ 給食ができるまでの過程を考えることで、これまでの自分の食べ方を振り返ったり、給食に関する工夫を知ったりして、食に関する関心を高めていく。(食に関する指導)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)
・ 給食はどのようにできるのか、自分なりの考えをもつ。 (給食)	○ 給食時の献立や様子について振り返らせることで、給食に対する関心をもたせるようにする。 ○ 給食ができるまでの系統図を事前に準備しておく。

(2) 本時の活動

① 活動テーマ例 「給食ってどこから来るの？」

② 活動のねらい 毎日食べる給食がどこから来るのか調べよう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 給食の献立や様子について、教師から話を聞く。	○ 毎日食べる給食がどこから来て、どのようにできるのか等の質問をし、給食に関する関心を高める。 ○ ゴールが給食になっている系統図を提示し、完成させながら活動していくことを伝える。
展開	2 各テーマごとに給食ができるまでの過程について調べる。 ・ どんな人が関わっているか ・ どんな場所から来るのか	○ 給食に関する資料を準備したり、事前に栄養士に話をしておくことで、調べる活動がスムーズにできるようにする。 ○ 調べたことをまとめ、系統図にはる用紙を準備し、調べた順に系統図にはってまとめていく。 ◇ 給食ができるまでに関心をもち、協力して調べているか。
終末	3 分かったことと、これからのめあてをノートに書く。	○ 系統図を用いて、本時を振り返り、分かったこととめあてを記入できるように助言する。

(3) 事後の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
・ 自分のめあてにもとづいて、実践する。 (給食)	○ 食における取り組みや頑張りを称賛し、声をかけることで、継続的に実践できるようにする。 ◇ 自分のめあてをもとに実践しているか。

1 題材名 5年生になったら【内容(2) 希望・目標】 指導の時期 2月

2 題材について

この時期の4年生は、善悪の判断をして行動することができたり、教師の指示がなくても自分たちで考えて行動することができたりと、できることが少しずつ多くなっていく。同時にこの時期は、高学年に向けての意識を高めていく時期であるともいえる。

4月から5年生に進級すると、高学年として、下学年の手伝いをしたり手助けをしたりする場面が多くなる。クラス替えを控えていることもあり、4月からの生活に不安がある児童もいると考えられる。そこで、5年生の学習や生活の様子について教師の話を聞いたり、5年生にインタビュー調査やアンケート調査をしたりする活動を通して、児童が来年度の学校生活の見通しをもち、早く5年生に進級したいという自信と意欲がもてるよう、本題材を設定した。

3 題材の目標

- 高学年としての学習や生活の望ましい在り方について、進んで話し合ったり調べたりしようとする。(関・意・態)
- 高学年としての学習や生活について、望ましい在り方を考えたり、めあてを発表したりすることができる。(思・判・実)
- 高学年としての学習や生活について、下学年の手本となることの必要性に気付き、それを実践していくことの大切さが分かる。(知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

- ◎ 1年間の生活を振り返ったり、上級生の生活の様子を知ったりすることを通して、来年度の自分のめあてを立てることができる。(技能)
- ◆ 来年度の生活を考えることを通して、生活の見通しをもち、よりよく生活していこうとする態度を育てる。(1-(2) 勤労・努力、忍耐)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)
・ 5年生にインタビュー調査をしたりアンケート調査をしたりする。 (休み時間)	○ 事前に5学年担任と打ち合わせをし、5年生になってうれしかったことや大変だったことを5年生児童に考えさせておく。

(2) 本時の活動

- ① 活動テーマ例 「もうすぐ5年生」
- ② 活動のねらい 5年生に進級する心がまえをもとう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 「活動のテーマ」と「活動のねらい」を確認し、教師の話を聞く。	○ 進級することの意味や、生活や学習の変化について、児童が意欲をもち、安心して考えられるよう話をする。
展開	2 インタビュー調査の結果を発表する。 3 アンケート調査の結果を聞く。	○ 発表の仕方を型で示す。 (例)○○について□□さんに話を聞きました。すると、… ○ 調査の結果を、項目を分けて説明する。 (例)生活について 学習について ふれあいタイムの過ごし方について うれしかったこと・大変だったこと
	4 活動を通して考えた来年度の目標やめあてを発表する。	◇ 調査や話合いの結果から、来年度に向けて見通しもち、意欲的に学校生活を送ろうとしているか。
終末	5 教師の話を聞く。	○ 話合いを振り返り、進級への意欲を高める。

(3) 事後の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
・ 希望をもって学校生活を送る。 (常時活動)	○ 調査の結果を掲示して、進級への意欲を維持できるようにする。 ◇ 意欲をもって学校生活を送ることができたか。 (常時活動)

1 題材名 3 学期の反省【内容(2) 希望・目標】 指導の時期 3 月

2 題材について

次年度は高学年になることを意識して、様々な場面でお手本となり、学習や生活に臨んできた。初めての宿泊学習や運動会、二分の一成人式など、1 年間のいろいろな行事などを通して、教師や仲間との信頼を深めながら、生活を送ることができた。そのような経験を通して、現在の 4 年生は、自信をもって学校生活に臨んでいると考えられる。そこで、1 年間の活動や自分たちの成長を確かめながら 3 学期を振り返り、5 年生への進級に向けてさらに自分を伸ばしていきたいという意欲を高めさせたい。

3 題材の目標

- 1 年間の活動を振り返り、よかったことや今後改善していきたいことを考えながら、来年度のめあてを考えようとする。(関・意・態)
- 3 学期の学習や生活を振り返り、自分の長所や短所を考え、来年度さらに伸ばしていきたいところを考え、目標に表すことができる。(思・判・実)
- 3 学期の反省をもとにして来年度のめあてを立て、目標に向かって努力することや友達と協力する大切さが分かる。(知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

- ◎ 友達の意見のよさに気付き、自らの生活に取り入れて問題を解決し、生活を向上させようとする。(実践力)
- ★ 振り返りと新たなめあてによって、生活が少しずつ向上していくことに気付かせ、近い将来を設計していくことの大切さや必要性に気付く。(キャリア教育)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)
・ 「自分につける通知表」に取り組む。 (帰りの会等)	○ 3 学期の生活を振り返らせ、楽しかったことや頑張ったこと、大変だったことを中心に記述させる。

(2) 本時の活動

- ① 活動テーマ例 「3 学期を振り返ろう」
- ② 活動のねらい 1 年間の生活と 3 学期の生活を思い出し、自分をさらに伸ばすめあてを考えよう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 「活動のテーマ」と「活動のねらい」を確認し、3 学期の生活について振り返る。 2 教師の話聞く。	○ 月ごとにあったの行事や写真を示すことで、児童から頑張ったことや大変だったことを引き出す。 ○ 3 学期を振り返り、学級ではなく、個人の振り返りができるよう声をかける。 ○ 3 学期の生活に改善点がない児童にも、課題意識や目的意識をもたせる声かけをする。
展開	3 来年度はどのように生活していきたいか話し合う。 4 来年度のめあてを記述する。 5 記述したことを発表する。	○ 今年度の振り返りと共に、来年度の行事などを伝えることで、具体的なめあてを立てられるようにする。 ○ 校訓「かしこく、なかよく、たくましく」にもとづいて考えさせる。 ○ 3 学期のめあてで達成できなかったものは、来年度に継続してもよいことを伝える。 ○ 来年度は高学年になることを意識させてめあてを考えさせる。 ◇ 3 学期の生活について振り返り、来年度のめあてを立てることができたか。
終末	6 教師の話聞く。	○ めあてが書けたことや発表したことを称賛し、来年度の学校生活への意欲を高める。

(3) 事後の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
・ 自分の振り返りとめあてを意識して生活する。 (常時活動)	○ 来年度の生活について、進級を意識した言葉をかける。 ◇ 振り返りをもとに立てためあてに沿って生活しようとしているか。

1 題材名 高学年に向けて【内容(2) 希望・目標】 指導の時期 3月

2 題材について

学年末・学年始休業は今年度の振り返りと共に進級への意識、次年度の学校生活の意欲を高める重要な時間である。これまでの長期休業の過ごし方で学んできたことを活かし、保護者の協力を得ながら充実した春休みを過ごすことで、児童にやり遂げる達成感や次年度も頑張りたいという意欲を味わわせたい。来年度には、5年生となり、高学年として活躍する場面も増えるため、今年度の振り返りと共に、次年度の意識を高めていきたい。そこで、本題材は、学年末・学年始休業中の生活、学習の仕方等を取り上げ、長期休業で学んだことを生かして、どのように計画を立て、過ごしていけばよいかを考えさせる。そして、学年末・学年始休業をよりよいものにし、進級に向けて頑張ろうとする意欲を育てたい。

3 題材の目標

- 学年末・学年始休業中の学習や生活について、来年度を意識して、進んで計画を立てたりめあてを考えたりしようとする。(関・意・態)
- 学年末・学年始休業中の学習や生活について、望ましい生活リズムや学習計画を考え、実行できる計画を立てたり、めあてを記入したりすることができる。(思・判・実)
- 学年末・学年始休業中の学習や生活について、計画的に取り組むことの大切さを知る。(知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

- ◎ 友達の意見のよさに気付き、自らの生活に取り入れて問題を解決し、生活を向上させようとする。(実践力)
- ◆ 計画を立て、自分で立てためあてを意識することによって、節度ある、自立した生活を送ろうとする態度を育てる。(1-1) 思慮、節度・節制・自立)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)
・ 春休みの計画表に、学年末・学年始休業中の予定を記入する。 (家庭)	○ 学年だよりで、学年末・学年始休業を計画的に過ごすことの大切さを保護者に説明し、協力を得られるよう配慮する。

(2) 本時の活動

① 活動テーマ例 「充実した春休みにしよう」

② 活動のねらい 春休みを楽しく過ごすための計画を立てよう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 「活動のテーマ」と「活動のねらい」を確認し、春休みの生活について、教師の話聞く。	○ これまでの春休みの過ごし方を想起させる。 ○ 項目を分けて、分かりやすく説明する。 (例)健康な生活について 安全な生活について 計画的な学習について ○ 来年度を意識できるような声かけをする。
展開	2 春休みのめあてを立てる。 3 春休みの生活や学習計画を立てる。 4 記述したことを発表する。	○ 見直しをさせ、実行可能な計画を立てさせる。 ○ 家族行事や育成会行事等にも進んで参加するよう話す。 ○ これまでの反省や挑戦したいことを意識して計画やめあてを立てるよう声をかける。 ◇ 計画的に過ごすことの大切さを理解し、望ましい春休みの計画を立てているか。
終末	5 教師の話聞く。	○ 学年末・学年始休業の過ごし方の大切さを説明し、学年末・学年始休業の生活への意欲を高める。 ○ 高学年としての自覚をもつよう話をする。

6 事後の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
・ 計画やめあてを意識して春休みの生活を送る。 (春休み)	○ 計画的に生活することが困難な児童、家庭には、連絡を取り、話を聞く。 ◇ 計画的に学年末・学年始休業を過ごすことができたか。(課題、日記等の提出状況)

1 題材名 正しい薬の使い方【内容(2) 健康・安全(体)】 指導の時期 1 1 月

2 題材について

最近では、けがや体調の変化があると、安易に薬を使う傾向が見られる。けがや病気の時、私たちの体には薬を使わなくても自然にけがや病気を治す力(自然治癒力)があることを知り、規則正しい生活が健康のために大切であることを理解し、日頃から規則正しい生活ができるようにする。また、薬の正しい使い方を知り、正しく使えるようにする。

3 題材の目標

- 薬について関心をもち、薬の使い方について意欲的に発表をしようとしている。(関・意・態)
- 薬の正しい使い方について考えることができ、自然治癒力を高めるために規則正しい生活をするができる。(思・判・実)
- 薬の正しい使い方や規則正しい生活が大切だということがわかる。(知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

- ◎ 自然治癒力と薬の関係性について気付き、正しい薬の使い方を理解する。(判断力)
- ◆ 正しい知識・情報に基づいて、薬の使い方について自ら判断できる能力を身に付けさせる。(1-(1) 思慮、節度・節制・自立)
- ★ 健康の大切さを認識し、自ら健康な生活を営もうとする態度を養う。(保健指導)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)
・ 家庭にどのような薬があるか調べてくる。(家庭等)	○ 普段使っている薬について事前に考えさせることで、薬に対する関心を高める。

(2) 本時の活動

- ① 活動テーマ例 「正しい薬の使い方を知ろう」
- ② 活動のねらい 正しい薬の使い方について考えよう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 「活動のテーマ」と「活動のねらい」を確認し、調べてきた薬について発表する。	○ 使ったことのある薬、知っている薬について発表させ、身の回りにたくさんの薬があることに気付かせるようにする。
展開	2 けがをした時や熱が出た時など、普段どうしているか発表する。 3 自然治癒力について知る。 4 養護教諭から正しい薬の使い方について話を聞く。 5 『間違い探しシート』を使い、グループで話し合い、発表する。	○ けがや病気の体験から、自然に治る場合と、薬などを使う場合があることに気付けるようにする。 ○ 体の中には治ろうとする力(自然治癒力)があることを理解できるようにする。 ○ 薬は体の中の治ろうとする力を助けるものであることを知らせる。 ○ 自然治癒力を高めるためには、規則正しい生活が大切であることを理解させる。 ○ 症状にあったものを決められた時間に、必要な分だけ飲むことを理解させる。 ○ 薬の副作用について触れる。 ○ グループを回り、必要に応じて指導助言する。 ◇ 話し合ったことや聞いたことをもとに、正しい薬の使い方を考え、自分の意見を発表することができたか。
終末	6 薬の正しい使い方について振り返り、教師の話を聞く。	○ 薬の正しい使い方について、学習したことを整理し、今後規則正しい生活に役立てることができるようになる。

(3) 事後の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
・ 規則正しい生活をする。(随時)	○ 生活リズムががんばりカードを利用して生活を振り返ることができるようにする。
・ 薬を正しく使う。(随時)	◇ 薬を正しく使おうとしているか。